



「SAT通信」

NO2

教職支援センター「より良いSAT活動研究会」

令和6年6月26日発行

学生のみなさん、こんにちは。

SAT活動もいよいよ前期後半へと突入しました。

前回通信でSAT活動の真の目的をお伝えしましたが、みなさんはその後のSAT活動に変容が見られたでしょうか。



本通信では、SATファイルの活動記録についてお話したいと思います。

SATファイルの活動記録欄には、「今回の目標・めあて」「活動内容」「活動の反省」があります。これらは、その日の「振り返り」をすることが目的です。どんな授業もそうですが、学びには必ず振り返りが必要です。子どもの成長にも振り返りが不可欠です。

<SATファイルの活動記録>

ア)「今回の目標・めあて」

人は目標を持つと「やってみよう」という気持ちが起こります。目標を持たない人にやる気は起きません。みなさんには、目標を持ってSAT活動に臨んでほしいと思います。では、目標はどのようなものがよいと思いますか。

①なるべく具体的な行動目標（具体的でない目標は行動に移すのが難しい）

②少しの勇気でやれそうな行動目標（かなりの勇気が必要な目標はくじけやすい）

例えば、「子どもがやる気になるような声かけをする」を目標に設定したとしましょう。その人は、事前に「どんな声かけをしたらよいか」を考えます。そして、目標達成のために勇気を出して子どもに声かけをします。行動に移しやすい目標を設定しましょう。

イ)「活動の反省」

この欄は感想を書くのではなく、どのような「気づき(学び)」があったかを書くようにしましょう。「気づき(学び)」はみなさんの成長の証です。「気づきの量」＝「成長の量」と捉えると、さらに充実した振り返りができるようになるでしょう。SAT活動はPDCAサイクルです。【(P)目標設定→(D)実践する→(C)振り返り(気づき)→(A)次に活かす】

<こんな振り返り(気づき)ができたらいいな>

活動の反省

いい！今にしたいこと、の気持ちです。

体育の時間子ども達が先生と話している時に動いているのをよく止めることが出来ませんでした。また、つなげる練習というのをもっと自分もやりました。一部の児童が争っていたりなどを対処することが出来ませんでした。SAT活動をマゼンタにして、授業の補助としているのに何も出来ず、自分の不甲斐ないを感じました。もう少し押したと思ったり自分がい？、注意したくてもしかり注意出来ないことが多くあります。また関わりが浅いからかもしれないと先生としゃべると活動しているうちに言葉がやや態度には気づけた気がします。50問テストでは、最後まで頑張った解いてる姿が見られます。教室にある身の回りの物を答えを探している子もいて、注意するのを待たない。



「子どもにとって最大の教育環境は、教師自身である」という先哲の言葉があります。

みなさんの成長が、子どもたちの成長に大きく関わっているのです。

みなさんには、SAT活動をやりっぱなしで一日を終わることなく、毎回振り返りを通して「気づき(学び)」を、自分の成長のためにも大切にしてほしいと願います。